

『八十里越』を歩きました。

2022年（令和4年）7月3日、越後支部会員他23名で八十里越を踏査しました。



番屋乗越にて

八十里越は、治承4年（1、180年）^{たかくらのみやもちひとおう}高倉宮衣仁王が会津から越後に逃れたとの伝説に始まる、旧下田村吉ヶ平（現三条市）から福島県南会津郡入叶津を結ぶ街道です。

古道（江戸時代に使用し、幕末長岡藩一行が越えた旧八十里越）、中道（明治14年～27年）、新道（明治28年）と変遷し、現在は新道（一部古道）が残っています。

八十里越は六十里越と並んで、古くから越後と会津を結ぶ生活の道であり、歴史の道でした。八十里越の名称は、道が難を極め、一里を平地の十里に例えたとされており、峠越えの道がどれ程険しかったが伺えます。越後からは塩・魚類等を、会津からは繊維原料・人足等、また文化交流の道として明治末期まで往来してきました。（距離32km・休憩を含まず約10時間の行程）



出発点の吉ヶ平山荘

当日は、JAC本部坂井副会長（本県出身）が参加され、所用のため、途中まで同行されました。

以下、踏査の記録です。

7月3日5:30吉ヶ平山荘に集合し、坂井副会長・桐生支部長の挨拶の後、6:00、2班に分れて出発しました。登山道の要所には高さ50cm程の標石が置かれています。守門川に掛かる樽井橋を渡り、コンクリート舗装の急登を登ると、左の杉林



馬場跡

の中に、源仲綱公の墓所があり、そのまま進むと「馬場跡」の標石。左は番屋山 右は八十里越との分岐です。右に進み、杉林を抜けると、目の前が急に開け、背の高い藪草の急登の中に、新道・古道が交差している登山道を樺尾根目指して進みました。



突然、ショウキランの大群生に思わず歓声。



崩落個所を慎重に進む



番屋乗越

8:30「番屋乗越」到着。ここで集合写真。



ブナ坂でしばしの休息

「番屋乗越」からは登山道は尾根の東側を巻くようになります。やがてブナの原生林の「ブナ坂」に到着。しばし休憩です。ブナ林の下は涼風が吹き、火照った身体には心地よく感じました。



ロープをフィックスしブナ沢を渡る

少し下るとブナ沢です。昨年まで崩落によりせき止められて大きな池が出来ていた所ですが、今冬上部が崩落し池は土砂ですっかり埋まっております。



高清水沢の渡渉



高清水沢の横断中、1名ハチに刺されるアクシデント発生。さいわい看護師のOさんの適切な処置により、大事に至らず幸いでした。



丸倉からの登山道(地形図の国道289号)と合流点「空堀」到着 12:00。ここで昼食タイムです。

この頃より雷鳴。怪しい空模様になってきました。

次は、冷たい水の流れる「殿様清水」です。のどを潤し、最後の急登を登ると本コースの最高標高の「鞍掛峠」(965m)に 13:45 到着しました。いよいよ雨模様となり雨具を着用。



「鞍掛峠」で三条市と別れ、ここからは魚沼市です。晴天なら守門岳の袴腰の鋭峰・黒姫・浅草岳が望めるところですが残念ながら、雲の中です。

尾根の突端が「小松峰」、岩場を慎重にトラバースし^{えぐ}抉れた沢を越すとようやく田代平の平坦な道です。背丈を越すオオイタドリや横に伸びたトチノキを避けながら進むと 14:50「田代平」の標石に出ました。

田代平湿原はここから数分。初めての人は湿原まで往復です。

木ノ根峠まであと 1 km 地点で、残念ながら、タイムアウトとなり大白川林道をゲート目指して、密集した藪草を分け、崩落箇所を慎重に通過し、8 km の道のりをひたすら下り、ゲートに 18:00 に到着しました。

(総歩行距離 20 km)

福島県只見町の大麻平まで全長 32 km を踏査する予定でしたが、帰路の国道 252 号の福島県側の橋梁が今冬雪崩により流失し、復旧の見通しが立たないことから、この度の調査は、吉ヶ平から県境の木ノ根峠 (八十里峠) を目指しましたが、随所にある沢の横断や、藪草に手間取り、到着が大幅に遅れましたが、皆様のご協力により、無事目的を達成することが出来ました。有難うございました。

(井口光利 記)